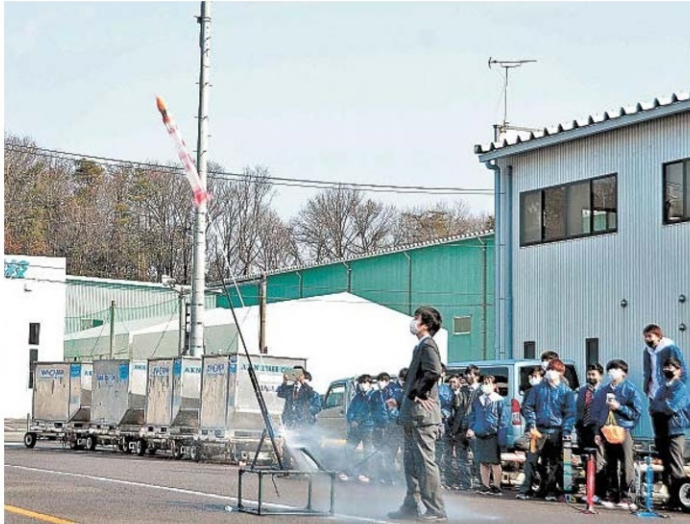


模擬人工衛星、空高く

中日本航空専門学校生が実習

ペットボトルロケットを使った模擬人工衛星打ち上げの実習に取り組んだ学生＝関市迫間、中日本航空専門学校



ロケット発射、切り離しにも成功

中日本航空専門学校（関市迫間）の航空生産科1年生が2日、同校でペットボトルロケットを使った模擬人工衛星打ち上げの実習に取り組んだ。九つの班のうち二つの班が打ち上げと人工衛星の分離に成功した。実習は、ものづくりの楽しさを知るとともに宇宙への興味を高めようと同校が企画。宇宙ステーションに物資を届ける補給機「このとり」の開発にも携わった同科学科長の三木陽一郎教授が指導に当たった。

1年生約40人が4、5人で班をつくり、約半年かけて製作した。ロケットの先端に基盤と小型カメラを組み込んだ飲料の缶サイズの小型模擬人工衛星を搭載し、ロケット打ち上げ後に自動で切り離され、パラシュートで降下する仕組み。人工衛星の分離に苦戦するなどした昨年までの事例を分析して臨んだ。

この日は学生たちがポンプでロケットに空気を注入し発射すると空高く上がり、人工衛星がうまく切り離されると歓声が上がった。分離にバネを使うなど工夫し高さ30メートルまで飛ばした班もあった。成功した班の班長藤村健輔さん（19）は「取り組みが報われ感慨深い」と話した。今後、授業で小型カメラの捉えた映像を確認する。（佐名妙予）